

2025年度 第2回公立大学法人大阪経営審議会議事要旨

日 時： 2026年3月26日（木）13時30分～15時00分

場 所： UR 森之宮ビル3階 公立大学法人大阪役員会議室（大阪市城東区森之宮 1-6-85）

※Web 会議システムを併用して実施

出席者： （外部委員）池田委員、上田委員、上山委員、竹内委員、土屋委員、鳥井委員、中野委員、
比嘉委員

（内部委員）福島理事長、櫻木副理事長、酒井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、中村理事

【審議事項】

1. 2026(令和 8)年度予算(案)

吉岡財務部長より説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<ご意見等>

（中野委員）

教職員の人件費の増加率が世間並み（2.4%～3.4%増）とのことだが、世界大学ランキング 200 位以内を目指す上で、優秀な人材を確保するための給与レベルは他大学と比較してどうか。

（酒井理事・肥田部長）

給与水準については人事院勧告を踏まえつつ、大阪府の水準に準拠している。人員については業務効率化を図りトータルで絞り込みを行っているが、教授職等の水準は他大学と比較しても一定のレベルを維持している。

（土屋委員）

高専の整備費 71 億円が目立っている。高額だが何の費用か。

（丸尾理事）

高専の費用は中百舌鳥キャンパス移転に伴う単年度の集中投資である。

（土屋委員）

資料にある「稼げる大学」という表現について、知の拠点である大学が使う言葉としてふさわしいか疑問だ。昨年に引き続き疑問を感じる。

（福島理事長）

「稼ぐ」という言葉については、自ら得た利益を未来の教育研究に投資していくという決意の表れとして捉えていただきたい。

（竹内委員）

病院分における診療報酬改定（ベースアップ分）への対応と、予算上の収入見込みへの反映はどうか。

（中村理事）

人事委員会勧告分に加えて、6 月からの診療報酬改定によるベースアップ分も個別に対応を検討する予定である。収入面では、改定率 3.09%のうち 1 年目の 2.41%分を予算に織り込んでいる。

2. 公立大学法人大阪の出資に係る認可申請について

重松理事及び中井共創推進室長より説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<ご意見等>

(上山委員)

規制緩和が進み国立大学でも多数の事例がでてきているので、それらを参考にしてできる取組を積極的に進めてほしい。

(中井共創推進室長) 事業化が適当と考えられる活動を徐々に拡大させていきたい。

(福島理事長) 学内資産と外部のマッチングからスモールスタートし、早期に拡大させていきたい。

【報告事項】

1. 森之宮キャンパス 1.5 期開発及び OMU「秋入学（学士課程）」

高橋理事および森岡企画部長より説明がなされた。

<ご意見等>

(上山委員)

キャンパス戦略として、森之宮キャンパスへの集約に伴う既存キャンパスの余剰地の活用はどうか。また、梅田・難波といった都心拠点のネットワークを撤退していいのか。例えば、ウメキタに研究者のネットワーク拠点等を設置するなど、何か検討しているか。

(丸尾理事)

羽曳野・高専跡地は大阪府へ返還する。杉本の工学部跡地等については将来の建て替え種地として確保しつつ、地域活性化に向けた活用をリサーチしていく。森之宮は新駅や周辺開発により 10 年後には街全体が変わり、利便性が向上すると考えている。

(福島理事長)

難波 (I-site なんば) や駅前第 2 ビルの拠点は、財務体質改善も含め森之宮へ集約・撤退する方針である。

(上山委員)

社会人大学院の移転にあたっては、平日の夜の利便性や環境についてマーケットリサーチを徹底すべきである。

(福島理事長)

総合知を活かし、メトロの新ビル開発等とも連携して魅力ある社会人大学院にしたい。

(中野委員)

秋入学の定員 50 名は、今後拡大を図っていくスモールスタートと考えてよいか。

(高橋理事)

全授業英語という大きなチャレンジであり、1 学年が現在 3,000 名程度のため、全体で見ると 50 名という人数は少ないが、まずは 50 名でスタートし、成果を見て拡大を検討したい。

(中野委員)

杉本町の工学部跡地のマーケットリサーチはスタートしているのか。跡地にビルを建ててインターナショナルスクールや教員宿舎にするなど、大学としてしっかり検討してほしい。

(丸尾理事)

リサーチは開始している。土壌汚染調査等も進めながら、地域の活性化にもどう活用できるか検討したい。また、跡地活用について今後もアイデアを頂戴したい。

(池田委員)

森之宮周辺の開発軸や今後の発展性を踏まえると、集約は非常に良い判断である。第2ビルの地権者状況などを考えても撤退は妥当である。

(比嘉委員)

秋入学における留学生25名の確保について、海外高校との連携などは具体的に進んでいるのか。

(高橋理事)

留学生の安定的確保に向け、海外高校との連携も含め具体化を進めている。

(比嘉委員)

留学生については各現地のコミュニティの高校と連携するなど、優秀な学生を集めるための選抜方法の具体的な構想はあるか。また、そのために選抜の入試の方法について具体的な構想はあるか。

(高橋理事)

高校3年生の秋から大学に入学できる「飛び入学」や、単なる学力ではなく「問う力」を評価するオンラインテストを開発し、活用していく。

(酒井理事)

大阪府教育庁とも意見交換しており、非常に面白いという評価を得ている。引き続き高大接続のさらなる強化が求められる。

(土屋委員)

第二寝屋川の河川敷を活用したアクセス向上について、検討状況はどうか。

(大西施設部長)

JR大阪城公園駅からデッキで線路を跨ぎ、河川敷を通過してキャンパスへアクセスできるようになる。長期的には1.5期部分から駅までデッキでつなぐ計画である。

(上田委員)

卒業生として、杉本町キャンパスが「学校名がなくなり悲しんでいる卒業生」の心にも残るような良い形で活用されることを願う。

2. 一般選抜志願者状況（速報）

高橋理事および丸尾理事より、説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。

3. 第1期中期目標期間の業務実績に関する評価結果

高橋理事より、説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。

4. 2026年度役員体制

酒井理事より、説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。

以上